

平成15年度 公共事業再評価調書 (河川総合開発 事業)

(事業着手後10年経過、着手後5年間未着手、**再評価後5年経過、社会情勢の急激な変化**) — いずれかに○

評価確定日	平成 年 月 日
所管部課名	建設交通 部 河川 課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点				
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果					
[河川名] 一級河川 畑川 [所在地] 由利郡大内町 小栗山地区内	[事業の目的] 1. 洪水調節 ダム地点の洪水量45m ³ /sのうち 9m ³ /sを放流する。 2. 流水の正常な機能の維持 3. 水道用水 大内町に2,000m ³ /日の取水を可 能にする。 [総合計画上の位置付け] 秋田21総合計画の中で位置づけ られている(災害に強い県土づく り)。 [事業の内容] ○大内生活貯水池建設事業 ○型式 重力式コンクリートダム ○高さ 27.5 m ○堤頂長 106.0 m ○堤体積 23,500 m ³ ○総貯水容量 724,000 m ³ 洪水調節 443,000 m ³ 不特定 84,000 m ³ 水道用水 99,000 m ³ ○事業費 58 億円 ○事業期間 H3~H19 ○治水安全度 1/50 ○計画高水流量 570 m ³ /s	[事業の経緯] H3 建設着手 H14 工事用道路着手 H15 用地買収完了 [進捗状況] ○H15末投資済事業費 17.6億円(30.3%) ○本体工事 未着工(0%) [長期継続の理由] 長期事業であり、水文、地質、環 境調査及び計画・設計に時間を要し た。	[社会経済情勢の変化] ○災害発生時の影響(想定氾濫区域内) 浸水戸数 522戸 ○過去の災害実績 被災頻度 8回/10ヶ年 最大浸水家屋 470戸 最大農地浸水面積 542ha ○過去の濁水被害 濁水頻度 2回/10ヶ年 最大断水日数 55日間 最大影響人口 3,150人 [地域の状況] ①地域開発の状況 芋川流域沿いに水田および集落が発 達している。集落毎に簡易水道が整 備されているが、水源の水量・水質 が不安定であり、これらの簡易水道 を大内第2簡易水道に統合しその水 源を大内ダムに求めている。 ②地域の協力体制 非常に協力的であり、工事用道路の 用地は町が買収したほか、用地買収 も円滑に進んでいる。 ③地域の事業に対する社会的評価 芋川は下流の整備が一段落したが、 上流は未整備である。また、大内 第2簡易水道は平成17年度給水開始 であり、大内ダムの早期完成を期待 している。 [環境対策] H9~H15に環境調査を実施している。 隣接の流域にクマタカの営巣を確認 しており、ダム及び貯水池の存在の影 響は少ないと評価している。ただし、 工事は、繁殖状況をモニタリングし ながら影響の少ないよう施工する。	[整備効果] 大内ダムで洪水調節を行うことにより 洪水の被害が少なくなる。 [費用の変化] 特になし [効果の変化] 特になし [費用対効果] <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>再評価時</td> <td>1.21</td> </tr> <tr> <td>採択基準</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	再評価時	1.21	採択基準	1.00	[事業進捗の見込み] 事業を進捗する上で支障はなく、 本体工事及び付け替え道路を進捗 させ、予定通り平成19年度末には 工事を完成させたい。 3 コスト縮減や代替案立案等の 可能性の観点 [コスト縮減の可能性] 本体コンクリートへの生コンの使用 使用、付け替え道路のルート選定及 び盛土の多用、管理設備のIT化 等、工事はもとより管理費用の低 減も視野に入れた検討を行っている。
再評価時	1.21								
採択基準	1.00								
再評価の結果	対応方針(案)及びその理由			公共事業評価専門委員会の意見					
○ 継続 ・ 中止 どちらかに○を付ける	[対応方針(案)] 計画どおり平成19年度完成、供用を図る。 [理由] 芋川の洪水の発生頻度は高く、大内ダムの完成が急がれること。また、大内第2簡易水道は 平成17年度に給水を開始するので、水源の整備が急がれること。								